

文化・芸術

「婦人像A」

1942年、油彩・板
35・0cm×27・6cm

松本竣介（1912〜47年）

真横を向いて、手を組む女性。顔の表情よりも手の表情の方が豊かです。画面中央に配置された女性の耳もまた、竣介の美しい線やかたどられ、絵の具が何層も重ねられた女性の透明感ある肌のマチエールの中、際立っています。

中学入学時に病気で聴覚を失った松本竣介。彼にとって人の手の表情、指の動きは相手の感情を読み取るのに注目すべき部分であったのではないのでしょうか。

大川美術館では来年1月22日から「松本竣介 読書の時間」を開催いたします。竣介のアトリエに遺残された900冊をこえる蔵書に注目し、創作と思想形成を再考する展覧会です。

もう一つのテーマとして、婦人像を中心に作品展示をいたします。竣介は、新聞、雑誌の写真を貼ったスクラップブックをテーマごとに作っていました。なかには、モダンな女性イメージだけを集めたものもあり、これらの視覚イメージが作品のイメージへとつながっているのではないかと推察もしています。

（池田）



〈名画の扉〉

大川美術館常設展から